

7. 研究所関係資料

1. 設立の経緯

東京文化財研究所は、2007（平成19）年4月1日に独立行政法人国立文化財機構の一施設となった。当研究所の設立の経緯は、1930（昭和5）年6月28日に設置された帝国美術院附属美術研究所までさかのぼることができる。

この美術研究所は、1924（大正13）年7月、帝国美術院長子爵故黒田清輝の遺言により美術奨励事業のために寄附出損した資金で遺言執行人が選択決定した事業である。すなわち遺言執行人代表伯爵樺山愛輔は、故子爵の遺志にしたがってこの資金で行うべき事業の選択を伯爵牧野伸顕に一任した。牧野伯爵は帝国美術院長福原鏝二郎及び東京美術学校長正木直彦とはかって諸方面の意見を徴し、またわが国美術研究の必要に照らして次の事業を行うこととした。

- (1) 美術に関する基礎的調査研究機関として美術研究所を設けること。
- (2) 黒田子爵の作品を陳列して同子爵の功績を記念すること。
- (3) 前二項の目的を達するために適当な建物を造営すること。
- (4) 事業成立の上は一切これを政府に寄附すること。

以後、今日までの所属、組織等の変遷については、下記の「年代別重要事項」を参照されたい。

2. 年代別重要事項

期 日	事 項
昭和元年12月25日	前期の事業を遂行するため委員会が組織され、東京美術学校長正木直彦が委員長に就任し、美術研究所事業については東京美術学校教授矢代幸雄、黒田子爵作品陳列については東京美術学校教授久米桂一郎・同岡田三郎助・同和田英作・同藤島武二及び大給近清、建物造営については東京美術学校教授岡田信一郎、会計事務については遺言執行人打田伝吉を各委員として事務を分掌進行させた。
昭和2年2月1日 同年10月28日	美術研究所準備事業を開始した。 東京市上野公園内に鉄筋コンクリート造、半地階2階建、延面積1,192m ² の建物1棟を起工した（本館）。
昭和3年9月	前記の建物が竣工したので、黒田記念館と名付け、美術研究所開設のため必要な備品・図書・写真等の研究資料を設備し、また館内に黒田子爵記念室を設け、黒田清輝の作品を陳列した。
昭和4年5月29日	遺言執行人代表者樺山愛輔は、建物・設備・研究資料等一切の外に金15万円をそえて帝国美術院長に寄附を願い出た。
昭和5年6月28日 同年10月17日	勅令第125号により帝国美術院に附属美術研究所が置かれ、東京美術学校長正木直彦が同研究所の主事に補せられた。 美術研究所開所式を挙行了た。
昭和7年1月1日 同年4月18日	美術研究所の研究成果発表機関誌として、定期刊行物『美術研究』を創刊した。 株式会社朝日新聞社より明治大正美術史編纂費として本年から向う5か年間毎年5千円、合計2万5千円を帝国美術院に寄附したいとの申出があった。

期 日	事 項
昭和7年5月26日	帝国美術院はこの申出を受理した。 明治大正美術史編纂委員会規程を設け、美術研究所は明治大正美術史の編纂に関する事務を行うことになった。
昭和9年10月18日	毎年10月18日を開所記念日と定めた。
昭和10年1月28日	鉄筋コンクリート造、2階建、延面積129m ² の書庫が竣工した。
同年4月	『日本美術年鑑』の編纂事務を開始した。
同年6月1日	勅令第148号により美術研究所官制が公布された。 研究資料閲覧規程を制定し、閲覧事務を開始した。
昭和12年6月24日	勅令第281号により美術研究所官制中改正の件が公布され、従来、帝国美術院に附置されていたのを文部大臣の直轄に改められた。
同年11月29日	美術研究所長職務規程、美術研究所事務分掌規程が制定された。
昭和13年2月12日	木造、平屋建、延面積97m ² の写真室1棟が竣工した。
昭和19年8月10日	黒田清輝の作品、並びに写真原版を東京都西多摩郡小宮村谷間家倉庫に疎開した。
昭和20年5月28日	美術研究所の図書・諸資料全部を山形県酒田市本町1丁目日本間家倉庫3棟に疎開した。
同年7～8月	酒田市本間家倉庫に疎開した図書資料を爆撃の危険を避けるため、さらに酒田市外牧曾根村松沢世喜雄家倉庫・観音寺村村上家倉庫・大沢村後藤作之丞家倉庫にそれぞれ分散疎開した。
昭和21年3月29日	酒田市疎開中の図書・諸資料等の東京向け発送を終了した。
同年4月4日	酒田市疎開中の図書・諸資料等が東京に到着し、引揚げを完了した。
同年4月16日	東京都西多摩郡に疎開中の黒田清輝作品並びに写真原版の引揚げを完了した。
昭和22年5月3日	美術研究所官制が廃止され、国立博物館官制が制定された。美術研究所は同館の附属美術研究所となった。 国立博物館に保存修理課発足。同課内に保存技術研究室を置いた（保存科学部の前身）。昭和23年度より専任の職員を配置し、研究を開始した。研究室は国立博物館本館地下の修理室の一室（66m ² ）に設けた。
昭和25年8月29日	文化財保護法の制定にともない、美術研究所は文化財保護委員会の附属機関となった。 文化財保護委員会事務局設置にともない、保存科学研究室は国立博物館保存修理課から文化財保護委員会事務局保存部建造物課に所属換えとなった。
昭和26年1月31日	美術研究所組織規程が定められ、第一研究部・第二研究部・資料部・庶務室が置かれた。
昭和27年4月1日	文化財保護法の一部が改正、東京文化財研究所組織規程が定められ、美術部・芸能部・保存科学部・庶務室の3部1室が置かれ、美術研究所組織規程が廃止された。 また文化財保護委員会事務局保存部建造物課保存科学研究室も廃止された。
同年7月1日	芸能部研究室として東京藝術大学音楽学部邦楽科教室2室を同大学から借用し、研究を開始した。
昭和28年4月26日	保存科学部研究室として、東京国立博物館構内の倉庫132m ² を改造のうえ移転した。
昭和29年7月1日	東京文化財研究所組織規程の一部が改正され、東京国立文化財研究所となった。
昭和32年3月22日	東京国立博物館構内に木造、外部鉄網モルタル塗、平屋建、8m ² の保存科学部の薬品庫が竣工した。

期 日	事 項
昭和32年11月30日	従来の2階建書庫の上にさらに1階を増築3階建とし、増築分延面積71m ² が竣工した。
昭和34年4月30日	東京国立文化財研究所研究受託規程が定められ、この年度から受託研究が開始された。
昭和36年9月16日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、従来の庶務室は庶務課となった。
昭和37年3月31日	東京国立博物館内に保存科学部庁舎（保存科学部実験室）として、鉄筋コンクリート造、2階建、延面積663m ² の建物1棟が竣工した。
同年7月1日	東京国立文化財研究所組織規程の一部が改正され、新たに保存科学部に修理技術研究室が置かれた。
同年7月20日	芸能部研究室は、保存科学部庁舎の竣工にともない、旧保存科学部庁舎に移転した。
昭和43年6月15日	文部省設置法の一部が改正され、本研究所は文化庁附属機関となった。
昭和44年8月23日	保存科学部庁舎に隣接して新営される別館庁舎（延1,950.41m ² ）の起工式が行われた。
昭和45年3月25日	前記の別館が竣工したので、同年5月26日竣工式が行われた。芸能部は、別館3階に移転した。
同年5月8日	保存科学部は別館の地階～2階に実験用機械類の移転据付を完了した。
同年6月29日	保存科学部庁舎の1階の模様替工事に着手し、同年10月15日工事が完了した。
同年11月2日	所長及び庶務課は、本館から保存科学部庁舎の1階に移転した（本館は、美術部庁舎となる）。これにより研究所の所在地表示は「12番53号」から「13番27号」に変更された。
昭和46年4月1日	保存科学部庁舎及び別館の敷地2,658m ² を東京国立博物館から所管換えされた。
昭和48年4月12日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部が設けられ4部1課となり、修復技術部に第一修復技術研究室及び第二修復技術研究室が置かれ、保存科学部修理技術研究室は廃止された。
昭和52年4月18日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、情報資料部の新設により5部1課となり、情報資料部に文献資料研究室及び写真資料研究室が置かれ、美術部資料室は廃止された。
昭和53年3月20日	本館構内の写場等（木造、平屋建、延面積144m ² ）を取りこわし、情報資料部研究棟として、鉄筋コンクリート造、地下1階、地上3階、延面積569.95m ² の建物が竣工した。
同年4月5日	文部省設置法施行規則の一部が改正され、新たに修復技術部に第三修復技術研究室が置かれた。
昭和59年6月28日	文部省組織令が改正され、本研究所は文化庁施設等機関となった。
平成2年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、新たにアジア文化財保存研究室が置かれ、5部1室1課となった。
平成5年4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、アジア文化財保存研究室は、国際文化財保存修復協力室となった。
平成7年4月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力室が廃止され、新たに国際文化財保存修復協力センターが設置された。同センターには、企画室及び環境解析研究指導室が置かれ、1センター5部1課となった。
平成7年4月1日	東京藝術大学と「東京芸術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻の教育研究に対する連携・協力に関する協定書」が交わされ、連携併任分野として独立専攻大学院文化財保存学専攻（システム保存学）が設置された。

期 日	事 項
平成9年10月1日	文部省設置法施行規則の一部が改正されて、国際文化財保存修復協力センターに保存計画研究指導室が置かれた。
平成12年2月4日	新営庁舎として、鉄筋コンクリート造、地上4階地下1階、延面積10,557.99m ² （建築面積2,258.48m ² ）が竣工した。
同年2月21日	新営庁舎の竣工にともない、別館（庶務課・芸能部・保存科学部・修復技術部・国際文化財保存修復協力センター）部分の移転が開始された。
同年3月6日	新営庁舎の竣工にともない、本館（美術部・情報資料部）の移転が開始された。
同年3月22日	建設省関東地方建設局営繕部より、新営庁舎の外構工事、植栽等の引き渡しを受け、新営庁舎関係の工事が完了した。
同年5月11日	新営庁舎の竣工を記念し、開所記念式典を挙行了。 この式典の挙行に際し、毎年5月11日を開所記念日と定めた。
平成13年3月29日	黒田記念館改修工事が竣工し、展示スペースが黒田記念室及び展示室の2室になった。
同年4月1日	東京国立文化財研究所は、奈良国立文化財研究所と統合され、独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所となった。 この独立行政法人化に伴い、東京文化財研究所は、管理部、協力調整官—情報調整室、美術部、芸能部、保存科学部、修復技術部、国際文化財保存修復協力センターの1センター5部1協力調整官—情報調整室となった。
平成15年9月19日	黒田記念館にエレベーターを設置し、門扉、外構の改修工事を行った。
平成18年4月1日	文化財研究所組織規程の一部が改正されて、協力調整官—情報調整室は企画情報部に、芸能部は無形文化遺産部に、国際文化財保存修復協力センターは文化遺産国際協力センターとなった。
平成19年4月1日	独立行政法人文化財研究所東京文化財研究所は、独立行政法人文化財研究所と独立行政法人国立博物館との統合により、独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所となり、黒田記念館は、東京国立博物館に移管された。 この統合に伴い、東京文化財研究所は、美術部を企画情報部に、保存科学部と修復技術部は保存修復科学センターに統合し、3部2センターとなった。
平成22年4月1日	国立文化財機構組織規程等の一部が改正されて、管理部は研究支援推進部となった。

3. 歴代所長（昭和5年～平成24年度）

役 職	氏 名	期 間
主事	正木直彦	昭和 5. 6.28～昭和 6.11.24
主事	矢代幸雄	昭和 6.11.25～昭和10. 5.31
所長事務取扱	和田英作	昭和10. 6. 1～昭和11. 6.21
所長	矢代幸雄	昭和11. 6.22～昭和17. 6.28
所長事務取扱	田中豊蔵	昭和17. 6.29～昭和22. 8.15
所長	田中豊蔵	昭和22. 8.16～昭和23. 5.10
所長代理	福山敏男	昭和23. 5.11～昭和24. 8.30
所長	松本栄一	昭和24. 8.31～昭和27. 3.31
所長事務代理	矢代幸雄	昭和27. 4. 1～昭和28.10.31
所長	田中一松	昭和28.11. 1～昭和40. 3.31
所長	関野克	昭和40. 4. 1～昭和53. 4. 1
所長	伊藤延男	昭和53. 4. 1～昭和62. 3.31
所長	濱田隆	昭和62. 4. 1～平成 3. 3.31
所長	西川杏太郎	平成 3. 4. 1～平成 8. 3.31
所長	渡邊明義	平成 8. 4. 1～平成13. 3.31
(独立行政法人文化財研究所 東京文化財研究所に移行)		
所長	渡邊明義	平成13. 4. 1～平成16. 3.31
所長	鈴木規夫	平成16. 4. 1～平成19. 3.31
(独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所に移行)		
所長	鈴木規夫	平成19. 4. 1～平成22. 3.31
所長	亀井伸雄	平成22. 4. 1～現在

4. 名誉研究員

氏 名	退 職 時 官 職 名	在 所 期 間	名誉研究員 発令年月日
登石健三	保存科学部長	昭和27.10.1～昭和50.4.1	昭和53.10.18
岡畏三郎	美術部長	昭和20.5.15～昭和51.4.1	昭和53.10.18
横道万里雄	芸能部長	昭和28.3.16～昭和51.4.1	昭和59.10.18
上野アキ	情報資料部文献資料研究室長	昭和17.11.3～昭和59.4.1	昭和59.10.18
江上綏	情報資料部主任研究官	昭和38.5.18～昭和59.3.31	昭和59.10.18
田村悦子	美術部主任研究官	昭和22.6.16～昭和60.3.31	昭和60.10.18
猪川和子	情報資料部文献資料研究室長	昭和22.6.27～昭和60.3.31	昭和60.10.18
伊藤延男	所長	昭和53.4.1～昭和62.3.31	昭和62.10.18
三隅治雄	芸能部長	昭和27.10.1～昭和63.3.31	昭和63.10.18
見城敏子	保存科学部物理研究室長	昭和34.4.1～平成元.3.31	平成元.10.18
濱田隆	所長	昭和62.4.1～平成3.3.31	平成3.10.18
関口正之	美術部長	昭和42.2.1～平成3.3.31	平成3.10.18
佐藤道子	芸能部長	昭和34.4.1～平成4.3.31	平成4.10.18
馬淵久夫	保存科学部長	昭和50.10.1～平成4.3.31	平成4.10.18
新井英夫	保存科学部長	昭和45.9.1～平成5.3.31	平成5.4.1
西川杏太郎	所長	平成3.4.1～平成8.3.31	平成8.4.1
三輪英夫	美術部第二研究室長	昭和53.8.1～平成8.3.31	平成8.4.1
蒲生郷昭	芸能部長	昭和56.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
中里壽克	修復技術部第一修復技術研究室長	昭和39.4.1～平成10.3.31	平成10.4.1
宮本長二郎	国際文化財保存修復協力センター長	平成6.4.1～平成11.3.31	平成11.4.1
羽田昶	芸能部音楽舞踊研究室長	昭和51.4.1～平成12.3.31	平成12.4.1
中村茂子	芸能部民俗芸能研究室長	昭和39.7.1～平成13.3.31	平成13.4.1
増田勝彦	修復技術部長	昭和48.8.1～平成13.3.31	平成13.4.1
米倉迪夫	情報資料部長	昭和50.9.1～平成13.3.31	平成13.4.1
星野紘	芸能部長	平成10.4.1～平成14.3.31	平成14.4.1
平尾良光	保存科学部化学研究室長	昭和62.4.1～平成15.3.31	平成15.4.1
井手誠之輔	協力調整官—情報調整室長	昭和62.7.1～平成16.3.29	平成16.3.30
斎藤英俊	国際文化財保存修復協力センター長	平成11.4.1～平成16.3.30	平成16.3.31
西浦忠輝	保存科学部長	昭和50.7.1～平成16.3.31	平成16.4.1
渡邊明義	所長	平成8.4.1～平成16.3.31	平成16.4.6
鈴木廣之	美術部日本東洋美術研究室長	昭和54.9.1～平成17.11.30	平成17.12.1
青木繁夫	文化遺産国際協力センター長	昭和49.7.1～平成19.3.31	平成19.3.31
三浦定俊	副所長	昭和48.8.1～平成20.3.31	平成20.3.31

氏 名	退 職 時 官 職 名	在 所 期 間	名誉研究員 発令年月日
鎌倉恵子	無形文化遺産部無形文化財研究室長	昭和63.4.1～平成19.3.31	平成20.3.31
鈴木規夫	所長	平成16.4.1～平成22.3.31	平成22.4.1
中野照男	副所長	平成4.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1
清水真一	文化遺産国際協力センター長	平成19.4.1～平成23.3.31	平成23.4.1

5. 2012（平成24）年度予算等

(1) 予 算

(単位：千円)

事 項	予 算 額
一般管理費	70,112
調査研究事業費	149,558
情報公開事業費	49,225
研修事業費	2,644
国際研究協力事業費	222,525
展示出版事業費	29,598
合 計	523,662

(2) 科学研究費助成事業交付一覧

(単位：千円)

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究 (B)	諸先学の作品調書・画像資料類の保存と活用のための研究・開発—美術史家の眼を引継ぐ	田中淳	3,120
”	文化財修復材料の劣化と文化財に及ぼす影響に関する基礎的研究	早川典子	1,430
”	敦煌芸術の科学的復原研究—壁画材料の劣化メカニズムの解明によるアプローチ	岡田健	1,820
”	文化財展示収蔵施設の実状に即したカビ調査技術と制御に関する研究	木川りか	4,420
”	近江の古代中世彫像の基礎的調査・研究—基礎データと画像蓄積のために—	津田徹英	5,850
基盤研究 (B) (海外学術調査)	西スマトラ州パダン歴史地区における文化遺産復興に関する総合的研究	亀井伸雄	6,110
基盤研究 (C)	戦災を受けた歴史的建造物の復旧過程が文化財保護制度に与えた影響に関する研究	秋枝ユミ イザベル	1,560

研究種目	研究課題	研究代表者	交付額
基盤研究 (C)	建築文化財における伝統的な塗装彩色材料の再評価と劣化防止に関する研究	北野信彦	1,040
"	政治的危機に瀕する『越境文化遺産』の保護と平和活用—国際政治・公共政策研究の貢献	原本知実	2,080
"	インド・アジャンター石窟壁画消失メカニズムの解明に向けた微生物生態学的調査	佐藤嘉則	2,470
"	中世・近世日本絵画における白色顔料の利用に関する科学的調査研究	早川泰弘	2,080
"	螺鈿のアジア史—技術史と交流史を中心に—	小林公治	2,210
挑戦的萌芽研究	科学的原理に基づいたモノクローム資料写真からの色材分析	吉田直人	780
"	古墳壁画表面における含水量の非接触測定システムの開発	犬塚将英	2,210
若手研究 (B)	寺院造営組織からみた平安前期彫刻の研究	皿井舞	1,040
"	イラン、マルヴ・ダシュト盆地における新石器化の考古学的研究	安倍雅史	780
"	自然共生型博物館における野外由来微生物の浮遊真菌濃度予測に関する研究	間潤創	1,690
"	文化財保護法の成立過程に関する研究—日本における文化財概念と史跡名勝天然記念物—	境野飛鳥	1,560
"	絵画修復と絵画制作に使用される膠の物性に関する基礎的研究	楠京子	1,170
"	黒海周辺地域における中世組積造建築遺産の系譜と保存継承に関する研究	鈴木環	1,170
"	GISを用いた古代クメール都市発展史の復原的研究	佐藤桂	1,560
研究成果公開促進費 (学術図書)	ベンガラ塗装史の研究	北野信彦	500
特別研究員奨励費	歴史的建築物におけるモザイクの現場保存とその対策	佐々木淑美	1,200
"	文化財の生物劣化モニタリング—超微量試料中のカビ、キノコ由来遺伝子の定性・定量—	和田朋子	1,200

(3) 受託調査研究一覧

(単位：千円)

研究課題	研究代表者	依頼元	受入額
国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策に関する調査等業務	岡田健	文化庁	41,361
特別史跡キトラ古墳保存対策等調査業務	岡田健	文化庁	37,299
文化遺産国際協力コンソーシアム事業	川野邊渉	文化庁	42,695

研究課題	研究代表者	依頼元	受入額
文化遺産国際協力拠点交流事業（キルギス共和国及び中央アジア諸国における文化遺産保護に関する拠点交流事業）	川野邊渉	文化庁	13,552
文化遺産国際協力拠点交流事業（アルメニア及びコーカサス諸国等における文化遺産保護に関する拠点交流事業）	川野邊渉	文化庁	13,466
文化遺産国際協力拠点交流事業（ブータン王国の伝統的建造物保存に関する拠点交流事業）	川野邊渉	文化庁	7,975
文化遺産保護国際貢献事業（専門家交流）（ミャンマーの文化遺産保護に関する技術的調査）	川野邊渉	文化庁	10,599
第36回世界遺産委員会審議調査研究事業	川野邊渉	文化庁	2,910
ユネスコ／日本信託基金 タンロン・ハノイ文化遺産群の保存事業	友田正彦	ユネスコ・ハノイ事務所	\$102,905
ユネスコ／日本信託基金 シルクロード世界遺産登録に向けた支援事業	山内和也	ユネスコ・アルマティ事務所	\$54,970
ユネスコ／日本信託基金 バーミヤーン遺跡保存事業	山内和也	ユネスコ・世界遺産センター	\$52,250
エジプト国大エジプト博物館保存修復センタープロジェクト（フェーズⅡ）にかかる国内支援業務	山内和也	独立行政法人国際協力機構（JICA）	25,457
霧島神宮における彩色剥落止めの手法開発及び施工監理	岡田健	霧島神宮	696
関西大学博物館所蔵登録有形文化財埼玉県熊谷市上中条出土人物埴輪頭部2点の修理復元	北野信彦	学校法人関西大学	1,365
近代木製家具の修復技法及び材料に関する調査研究	中山俊介	博物館明治村	395
水浸した日本画の修復方法に関する調査研究	岡田健	應城山龍藏院	300
絵金屏風の保存修理に関する調査研究	岡田健	熊本市美術文化振興財団	199

(4) 共同研究等一覧

(単位：千円)

研究課題	相手先	担当部局	金額	区分
京都市内出土文化財の保存修復科学的な調査研究	財団法人京都市埋蔵文化財研究所	保存修復科学センター	300	受入
航空資料保存の研究	財団法人日本航空協会	保存修復科学センター	400	受入
巖島神社社殿の部材及び塗装材料の保存修復科学的な調査研究	宗教法人巖島神社	保存修復科学センター	300	受入
鎌倉市内（大倉幕府周辺遺跡群）出土資料の保存修復科学的な調査研究	鎌倉市	保存修復科学センター	300	受入

(5) 助成金一覧

(単位：千円)

研究課題	助成元	担当部局	受入額
イスラーム時代のフルブック都城址出土の壁画断片の保存修復	公益財団法人住友財団	文化遺産国際協力センター	2,840
古代墳墓の発掘保護に関する日中共同研究（3年計画の2年目）	公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団	保存修復科学センター	500

(6) 寄付金受入一覧

(単位：千円)

研究課題	寄付者	担当部局	受入額
東京文化財研究所における研究事業の助成	株式会社東京美術倶楽部	企画情報部	1,000
東京文化財研究所における研究成果の公表（出版事業）	東京美術商協同組合	企画情報部	1,000

年度内主要事業一覧

期 日	事 業 名
24. 4. 5	ギメ美術館理事、ユベール・ギメ氏講演会「エミール・ギメ ウルトラマリンからギメ美術館創立へ」
24. 4.18	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会研究所調査研究等部会（東京文化財研究所）
24. 5.30	独立行政法人国立文化財機構外部評価委員会総会（東京国立博物館）
24. 6.12	文化遺産国際協力センター研究会「タジキスタン国立古代博物館が所蔵する壁画断片の保存修復」
24. 6.25	保存担当学芸員フォローアップ研修
24. 7. 2～ 7.16	在外日本古美術品保存修復協力事業ワークショップ「日本の紙本・絹本文化財の保存修復」（ベルリン国立博物館アジア美術館）
24. 7. 4	文部科学省独立行政法人評価委員会国立文化財機構部会（東京国立博物館）
24. 7. 9～ 7.20	博物館・美術館等保存担当学芸員研修
24. 7.20	第5回東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会
24. 8.27～ 9.14	国際研修「紙の保存と修復」
24. 9. 7	文化遺産国際協力コンソーシアム研究会「ブルーシールドと文化財緊急活動—国内委員会の役割と必要性—」
24.10.16	第17回資料保存地域研修（岡山県立美術館）
24.10.19～ 10.20	第46回オープンレクチャー「モノ／イメージとの対話」
24.10.26	第7回無形民俗文化財研究協議会「記憶・記録を伝承する—災害と無形の民俗文化—」
24.11.13	第6回東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援委員会
24.11.13～ 11.20	在外日本古美術品保存修復協力事業における漆工品の保存と修復に関するワークショップ（ケルン東洋美術館）
24.11.30	第26回近代の文化遺産の保存修復に関する研究会「御料車の保存と修復及び活用」
24.12. 1	文化遺産国際協力コンソーシアムシンポジウム「さまよえる文化遺産—文化財不法輸出入等禁止条約10年」
24.12. 5～ 12. 7	第36回文化財の保存及び修復に関する国際研究集会「文化財の微生物劣化とその対策」
24.12. 8	第7回公開学術講座「山口鷲流狂言の伝承を考える—東京文化財研究所無形文化遺産部所蔵記録をめぐって—」
24.12. 11	文化遺産国際協力センター研究会「ミャンマーにおける文化遺産保護の現状と課題」
25. 1.23、 25. 2. 4、 25. 2.22	「語ろう！文化財レスキュー—被災文化財等救援委員会公開討論会」
25. 1.24	第6回伝統的修復材料及び合成樹脂に関する研究会「建築文化財における塗装彩色部材の劣化と修理」
25. 3.15	文化遺産国際協力コンソーシアム第12回研究会「文化遺産保護の国際動向」

